

食糧危機は他人ごとか

今年は67年ぶりの冷害に見舞われ、被害農家の窮状は、誠に気の毒な限りである。古米・古古米に困り抜いたときもあった。しかし、世界的には確実に慢性的な食糧危機が迫りつつあると言われている。とくに開発途上国における饑餓は、一昨年のアフリカにおける早ばつ、「農業ビジネス」にも掲載されたバングラデシュの惨状など、由々しき大問題となっているが、われわれはこれを他人ごととすませてよいのだろうか。

長谷川仁氏によれば、明治以前に起きた害虫多発年は160回にもおよび、なかでも享保17～18年には各地に種々の害虫が大発生し、収穫皆無の藩が23、半分虫付の藩が9、被害石高は366万石に達し、餓死者12000人、死牛馬14000頭ということであった。すなわち、今日のバングラデシュの姿は、しばらく以前までの日本の姿であったと言えよう。

現在、日本の食糧自給率は一応65%とされているが、輸入飼料を加味すれば40%、さらにもし石油輸入が途絶えて、農薬・肥料・機械・施設および電力などが一切使えなくなったとすると、その値はおそらく30%にも達しなくなるだろうと言われている。日本のように可耕面積の少ない国で、1億人が生きてゆくためには、できるだけ小人数で省力的集約農業を行なって反当収量をあげ、なおかつ不足する食糧は余剰人口による工業生産の輸出によって賄うより仕方がないと思うのだが…………。

自然農法を絶対至上と称える人々は、享保の苦しみをもう一度繰り返せというのだろうか。
〔武田薬品工業株式会社 取締役 古田英也）

目 次

(第10巻第9号)

芝生地における広葉雑草の防除……………2

＜千葉県農業試験場 竹内栄次郎＞

＜はじめに＞……………2

1. 広葉雑草の発生相……………2

2. 広葉雑草防除の主な除草剤……………5

・CAT水和剤(シマジン)……………5

・MBPMC・MCP水和剤(エーザック)……………5

・アシュラム液剤(アージラン)……………5

・2,4PA・オキサジアゾン水和剤(プラスコンR)……………5

・S-28乳剤(クレマート)……………6

・2,4PA水溶剤(ローンキープ)……………6

・MCP水溶剤とMCP液剤……………6

・BPA水溶剤(ペスコ)……………6

・MDBA液剤(バンベルD)……………7

＜おわりに＞……………7

桑の栽培と雑草防除……………7

＜蚕糸試験場栽桑部 小野松治＞

＜はじめに＞……………7

1. 桑栽培の特徴……………7

2. 桑園における雑草の発生……………8

3. 優占雑草と雑草害……………10

4. 雑草防除法をめぐって……………12

＜おわりに＞……………14

昭和51年度春夏作芝生関係除草剤・

生育調節剤試験成績概要……………15

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞

外国文献抄録……………18

植調協会だより……………20